

# 建築空間におけるユーザー生活行動の安全確保のための評価・対策技術に関する研究

(平成18～20年度 18年度予算額:21百万円)

## 目的

六本木ヒルズの回転自動ドアによる事故など、建築空間における不慮の事故が多発していることを踏まえ、従来の安全対策やユーザーの注意だけでは防止しにくい事故等について、「事故リスク」として評価する手法を開発し、あらかじめ適切な安全対策を講じることにより建築空間におけるユーザーの安全を確保する。

## 内容

事故のリスクを的確に評価・把握する技術手法を確立するとともに、ユーザーの生活行動に関する経験、知識、安全性評価・対策技術を集積した知識ベースを構築し、既存の空間・装置等の改善ガイドラインや今後、開発・導入する空間・装置のための安全計画ガイドラインを作成する。

## 効果

新しい設備の導入や既存施設の改善の際における日常事故にかかわるリスクを評価することにより、適切な安全対策が講じられるとともに、事故等の事例教訓を汎用性のある改善情報とし、個々の設備等の安全対策の充実が図られる。

